

メッセージアウトライン サムエル記第二7：1～29 「神との契約」

[1]「王が自分の家に住んでいたときのことである。主は、自分の周囲のすべての敵から彼を守り、安息を与えておられた」

「自分の家」…ダビデがエルサレムに住むようになり、ツロの王ヒラムが彼のために派遣した建築家たちが建てた王宮。ダビデはイスラエル統一王国の王となり、主は周囲のすべての敵から彼を守り、安息と平安を与えておられた。

[2-3]「王は預言者ナタンに言った。『見なさい。この私が杉材の家に住んでいるのに、神の箱は天幕の中に宿っている。』ナタンは王に言った。『さあ、あなたの心にあることをみな行いなさい。主があなたとともにおられるのですから。』」

「ナタン」…王室付きの預言者。彼はサムエル以来続く預言者の群れの一人であったのであろう。彼はこれから重要な局面でしばしば登場する。「杉材」…イスラエルでは高価な建築材。レバノン等から輸入された。ダビデは神の箱を天幕の中ではなく、それにふさわしい建物を作り、そこに安置しようとした。そしてそのことを自分の一存ではなく預言者ナタンに相談した。彼は今まではペリシテ人との戦いなどではウリムとトンミムという主のみこころを何う道具によって示されてきたが、ここでは預言者に相談している。過去にはサムエルなどが預言者として主のみこころを示してきたが、ここからはまた、人の語る言葉を用いて主のみこころを示すために、預言者が用いられていく。

ここでナタンは神の箱のために家を建てるというダビデの提案に同意する。

[4-5]「その夜のことである。次のような主のことばがナタンにあった。『行って、わたしのしもべダビデに言え。【主はこう言われる。あなたがわたしのために、わたしの住む家を建てようというのか。】』」

主は夜の幻のうちに(17)ナタンに語られた。「わたしのしもべダビデ」…モーセやヨシュアにも匹敵するダビデの位置。主なる神に仕え、用いられる器であることが強調されている。

「あなたが～建てようというのか」…これは疑問文であり、「わたしのために、わたしの住む家を建てるのはあなたなのか」という意味。建てるのはダビデではないことが言外に示されている。

[6-7]『わたしは、エジプトからイスラエルの子らを連れ上った日から今日まで、家に住んだことはなく、天幕、幕屋にいて、歩んできたのだ。わたしがイスラエルの子らのすべてと歩んだところどこでも、わたしが、わたしの民イスラエルを牧せよと命じたイスラエルの部族の一つにでも、【なぜ、あなたがたはわたしのために杉材の家を建てなかったのか】と、一度でも言ったことがあつたらうか。』」

主は出エジプト以来、幕屋にいてイスラエルとともに歩んでこられた。シナイの荒野で歩んだ様々な滞在地とカナンの地に入ってからにはギルガル(ヨシュア4:19)、エバル(ヨシュア8:33)、シェケム(ヨシュア24:1、26)、ベテル(士師20:26~27)、シロ(Iサムエル3:3、4:4)、キルヤテ・エアリム(Iサムエル7:2)、オベデ・エドムの家(IIサムエル6:11)、そしてエルサレム。

そのように主は常に幕屋にいてイスラエルの民とともに歩んでこられたのに、その間、「なぜ、～わたしのために杉材の家を建てなかったのか」と一度でも言ったことがあったのかと主は問われる。

[8-9]「今、わたしのしもベダビデにこう言え。『万軍の主はこう言われる。わたしはあなたを、羊の番をしていた牧場から取り、わが民イスラエルの君主とした。そして、あなたがどこに行っても、あなたとともにいて、あなたの前であなたのすべての敵を絶ち滅ぼした。わたしは地の大いなる者たちの名に等しい、大いなる名をあなたに与えてきた。』」

「万軍の主」とは天にある軍勢の統率者という概念に由来する表現。万物を創造し、すべて治めておられるお方こそイスラエルの主なる神なのである。人間が想像し考えて造った神々ではない。

主は羊飼いであったダビデをイスラエルの王とされ、彼がどこへ行っても彼とともにおられ、すべての敵を断ち滅ぼし、地の大いなる者たちの名に等しい大いなる名を与えられた。

「地の大いなる者たち」とは歴史上に名をとどめている偉大な王たちのことであろう。

[10-11] ここではイスラエルの民のカナン定着と、安息のことが述べられている。

「一つの場所」…カナンの地 「不正な者たち」…イスラエルを取り巻く近隣諸国。「初めのころ」…ヨシュアの後を継いだ士師たちの時代。外的の侵入、圧迫と民の霊的墮落の時代。「さばきつかさ」…士師たちのこと。そしてダビデが王として治める時代となり、主は彼にすべての敵からの安息を与えられたのである。

「主はあなたに告げる。主があなたのために一つの家を造る」…ダビデ家を王朝として確立するという意味。一代限りではなくずっと続く。

[12-13]「あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる」

「あなたの身から出る世継ぎの子」とは直接的にはソロモンであるが、究極的にはダビデの子として生まれたイエス・キリストによって成就する。

[14-15]「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。彼が不義を行ったときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。しかしわたしの恵みは、わたしが、あなたの前から取り除いたサウルからそれを取り去ったように、彼から取り

去られることはない」

「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる」…父と子のような親密な関係になる。主の恵みは前王サウルの時のように取り去られることはないが、彼が罪を犯せば父が子に対するように懲らしめられる。

ソロモンはダビデの後を継ぎ、繁栄するが、晩年は偶像礼拝などの主のみどころにかなわない道に行った。それゆえに主の不興を買うこととなる。「人の杖、人の子のむち」とは主が彼に反逆する者たちを起こし、苦しめられること。これはソロモンのみではなく、その後継者にも同様に当てはまる。

[16]「あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ」

これはダビデ王朝と国としてのイスラエルに対する主の約束である。5節からこの16節までは特にダビデ契約と呼ばれる。

[17] 預言者ナタンはこれらのことばをすべて夜の幻のうちに受け、それをそのままダビデに告げたのであった。

[18-29]ダビデの祈り

[18]「ダビデ王は主の前に出て、座して言った。『神、主よ、私は何者でしょうか。私の家はいったい何なのでしょう。あなたが私をここまで導いてくださったとは。』」

「主の前」…天幕の中に安置された神の箱の前。「座して」…神の前での謙遜を表す。普通は立って祈る。「私はいったい何者なのでしょう」…彼は自分の無力さ、小ささ、彼の家の平凡さを告白しつつ、ここに至るまで導いてくださった主に祈り始める。

[19]「神、主よ。このことがなお、あなたの御目には小さなことでしたのに、あなたはこのしもべの家にも、はるか先のことまで教えてくださいました。神、主よ、これが人に対するみおしえなのでしょう」

はるか先に至る祝福まで教えてくださいました主に対して、ダビデは驚きと恐れ多い思いを告白する。主がはるか先のことまで告げられるのは普通のことではない。

[20-21]「ダビデはこの上、何を加えて、あなたに申し上げることができるでしょうか。神である主よ。あなたはこのしもべをよくご存じです。あなたは、ご自分のみことばのゆえに、そしてみどころのままに、この大いなることのすべてを行い、あなたのしもべに知らせてくださいました」

ダビデは主の前に自分を飾って申し上げることは何もない。主は彼の弱さや無力さをすべてご存じであり、その上で彼をみどころのままにイスラエルの王に立て、はるか先のことまで知らせてくださった。そのことを思うとき、ただ感謝のみである。

[22-24]「それゆえ、申し上げます。神、主よ、あなたは偉いなる方です。まことに、私たちが耳にするすべてにおいて、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はいません。また、地上のどの国民があなたの民イスラエルのようでしょうか。

御使いたちが行って、その民を御民として贖い、御名を置き、大いなる恐るべきことをあなたの国のために、あなたの民の前で彼らのために行われました。あなたは、彼らをご自分のためにエジプトから、異邦の民とその神々から贖い出されたのです。そして、あなたの民イスラエルを、ご自分のために、とこしえまでもあなたの民として立てられました。主よ。あなたは彼らの神となりました」

ダビデは主なる神の偉大さと唯一性、イスラエルをご自分の民とされたこと、その民を奴隷となっていたエジプトから、その偶像の神々から贖いだされた過去の歴史を思い、主なる神をほめたたえる。イスラエルの神は偶像の神ではなく、天地万物を創造された真の神であり、イスラエルをエジプトから脱出させ、約束の地に導き入れ、今日あるように祝福してくださったのである。

ダビデは個人的な祈りをいつしか拡大して、イスラエルのための祈りとしている。

[25-26]「今、神である主よ。あなたが、このしもべとその家についてお語りになったことばを、とこしえまでも保ち、お語りになったとおりに行ってください。こうして、あなたの御名がとこしえまでも大いなるものとなり、『万軍の主はイスラエルを治める神』と言われるように。あなたのしもべダビデの家が御前に堅く立ちますように」

主がダビデに語ってくださった約束のことばがそのとおりになり、主の御名があがめられ、主こそイスラエルを治める万軍の神であると諸国から言われ、しもべダビデの家が御前に堅く立ちますようにとの祈り。

[27-28]「イスラエルの神、万軍の主よ。あなたはこのしもべの耳を開き、『わたしがあなたのために一つの家を建てる』と言われました。それゆえ、このしもべは、この祈りをあなたに祈る勇気を得たのです。今、神、主よ、あなたこそ神です。あなたのおことばは、まことです。あなたはこのしもべに、この良いことを約束してくださいました」

「あなたのために一つの家を建てる」とはダビデ家を王朝として確立するという意味。ダビデは神の恵み深いお取り扱いに応答し、「あなたのことばは、まことです。あなたはこのしもべに、この良いことを約束してくださいました」と告白し、主の御名をあがめる。

[29]「今、どうか、あなたのしもべの家を祝福して、御前にとこしえに続くようにしてください。神である主よ。あなたがお語りになったからです。あなたの祝福によって、あなたのしもべの家がとこしえに祝福されますように」

ダビデの祈りは主の恵みの約束の応答であり、「あなたの祝福によって、あなたのしもべの家がとこしえに祝福されますように」と結ぶ。

イスラエルこそ、主なる真の神を伝え、教えるために選び立てられた神ご自身の民であり、その子孫によって世界の全国民が祝福され、救われ、神のものとなる。これこそアダムの墮落以来、罪と悲惨の中にいる全人類に対する神の救いのご計画なのである。

アダムの墮落(創世記3章)



アブラハムとの契約…多くの国民の父となる。王たちがあなたから出てくる。わたしは、あなたの神、あなたの後の子孫の神となる。(創世記17:1~8)

そして、契約は更新されていく。



イサク



ヤコブ



イスラエル12部族



モーセ、ヨシュア、士師(オテニエル、エフデ、バラク、ギデオン、サムソン、サムエルなど)



(サウル)



ダビデ



ソロモン



イエス・キリスト　ヨハネ1:9~14、3:16、使徒13:23、36~38



全世界へ福音が宣べ伝えられて行く。　マタイ28:18~20、使徒1:8